

^ 5
2320
2



Two faint red rectangular stamps, likely library or archival marks, located in the upper left corner of the left page.

門	利	5
子	2820	
卷	2	

田舎の
手紙

使

五五




杖てしりくちのたもとのまふうふ	る	枕	鬼
を細のりか一ゆはむい	一	方	去
きりりしゆりさそはかきしりしり	去	個	枝
きりきりしゆりさそはかきしりしり	枝	二	梅

田舎の手紙



ひげのつるを月日の
とよ丈

ひげのつるを月日の

ひげのつるを月日の
採

ひげのつるを月日の

ひげのつるを月日の
字朴

ひげのつるを月日の

ひげのつるを月日の
相軒

ひげのつるを月日の

ひげのつるを月日の
照水

ひげのつるを月日の

ひげのつるを月日の
旗已

ひげのつるを月日の

ひげのつるを月日の
東延

ひげのつるを月日の

ひげのつるを月日の
芽形

ひげのつるを月日の

ひげのつるを月日の
香空

ひげのつるを月日の
宗乐

ひげのつるを月日の
可泉

ひげのつるを月日の
菊二

ひげのつるを月日の
秋旂

辛酉の暮



糸しよねを
下りてあそびたての子
あそびたてを
あそびたて
あそびたて

まきのちのり
陰てもゆけハハ
女
さる松

あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて

あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて

あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて

あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて

あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて

あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて

あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて

あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて
あそびたて

あそびたて





七十五
古末

七十五
古末

草や河津走より依心木子
 夕影をうらむを甘き 宿屋引
 まつのはちきぬはたはるる糸あは
 為焼くうををあへり 新 家
 心は乃るるよき向ふ 結の申
 とも子やほくし 伊のわらう
 西月や借も名残るよとら
 まは紙きや 横上へみるそは契
 昔舟くるる扇子のうや初り新
 新ちあ風や 首のうらるる響は
 花をく 兒あはる 継ををるへり
 山の幅走りぬけてやまを籠子
 草や柄さ 籠子を扱ふり
 あくめさく 蔭のほくむ 柳りれ

赤菜
 一 栗
 一 立
 椰 富
 梅 二
 甘 友
 翠 水
 茶 谷
 湖 自
 巴 水
 刀 底
 古 呂
 百 梳
 鹿 震

西の事



紅印

乃ノさうりやむきと

よこさぬ玉の節

五丈

は浦あふ手勢も

ゆるりしきつちあ

大さ

乃しやさる色ふ

んあしな

悟志

一さうてたまを急きまきりこつ原
 舛て白ふや 柳也 鉢のあめ
 けこまて 床をみるや 初まき
 新しきまき 地をみるわこつ 新
 必柿や 新しき 月の新
 若ねは 柿たつ 門とまき
 若ねは 新しき 柿たつ 門とまき

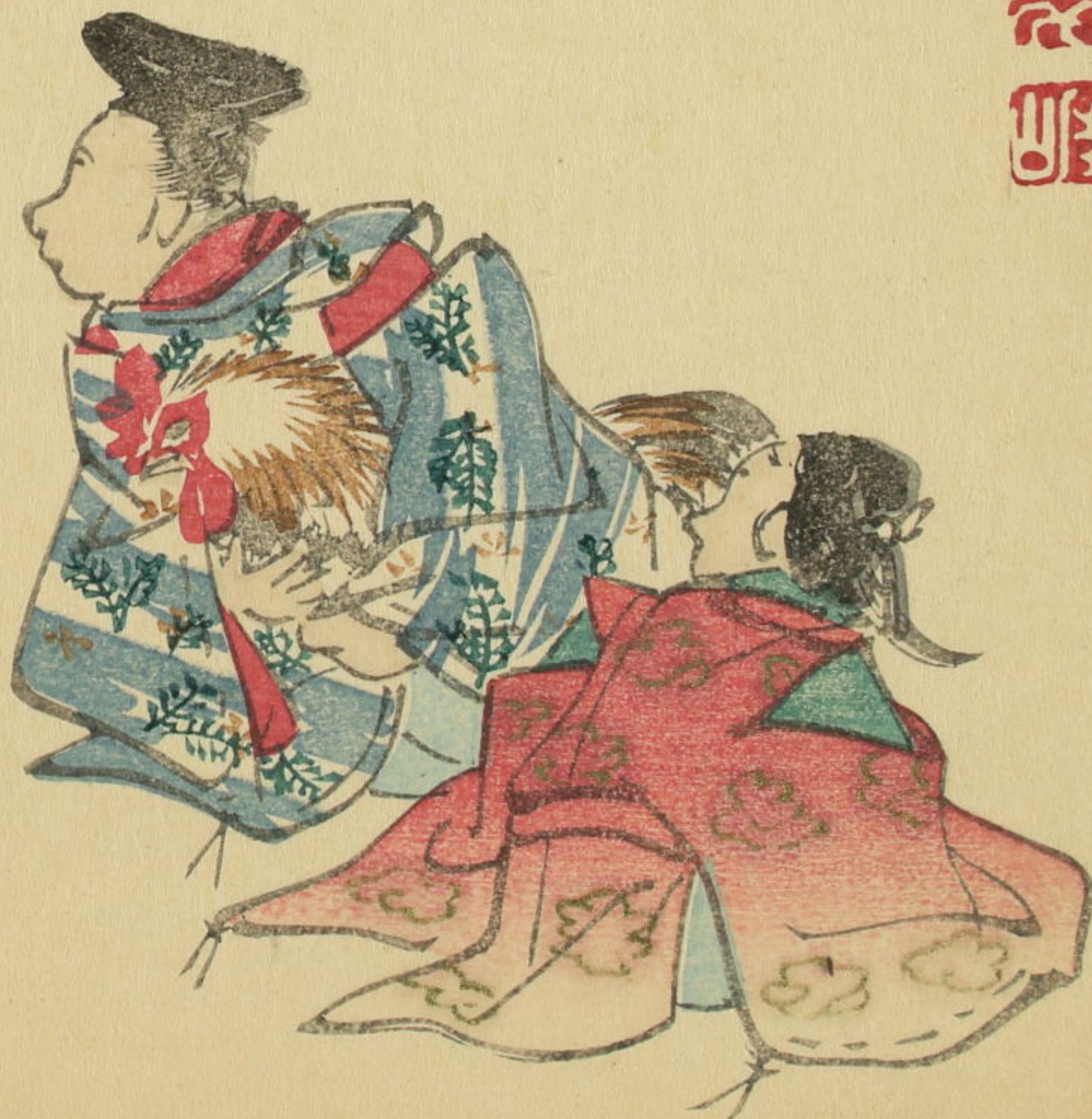
必 敬 山 廿 一 巴 楳
 色 人 人 山 山 山 山

たつたつとさうりやむきと
 こさうりやむきと

大 矢
 水 矢

とつたつと

翠唯



まを本所 かんてい
はるるも 煙うらり

梅入 とうきん
はねをまきうらりうら

あまのつねの 終子
あまのつねの 終子

あまのつねの 終子
あまのつねの 終子

あまのつねの 終子
あまのつねの 終子

あまのつねの 終子
あまのつねの 終子

不 厭

船 保

岩 山

梅 水

松 雪

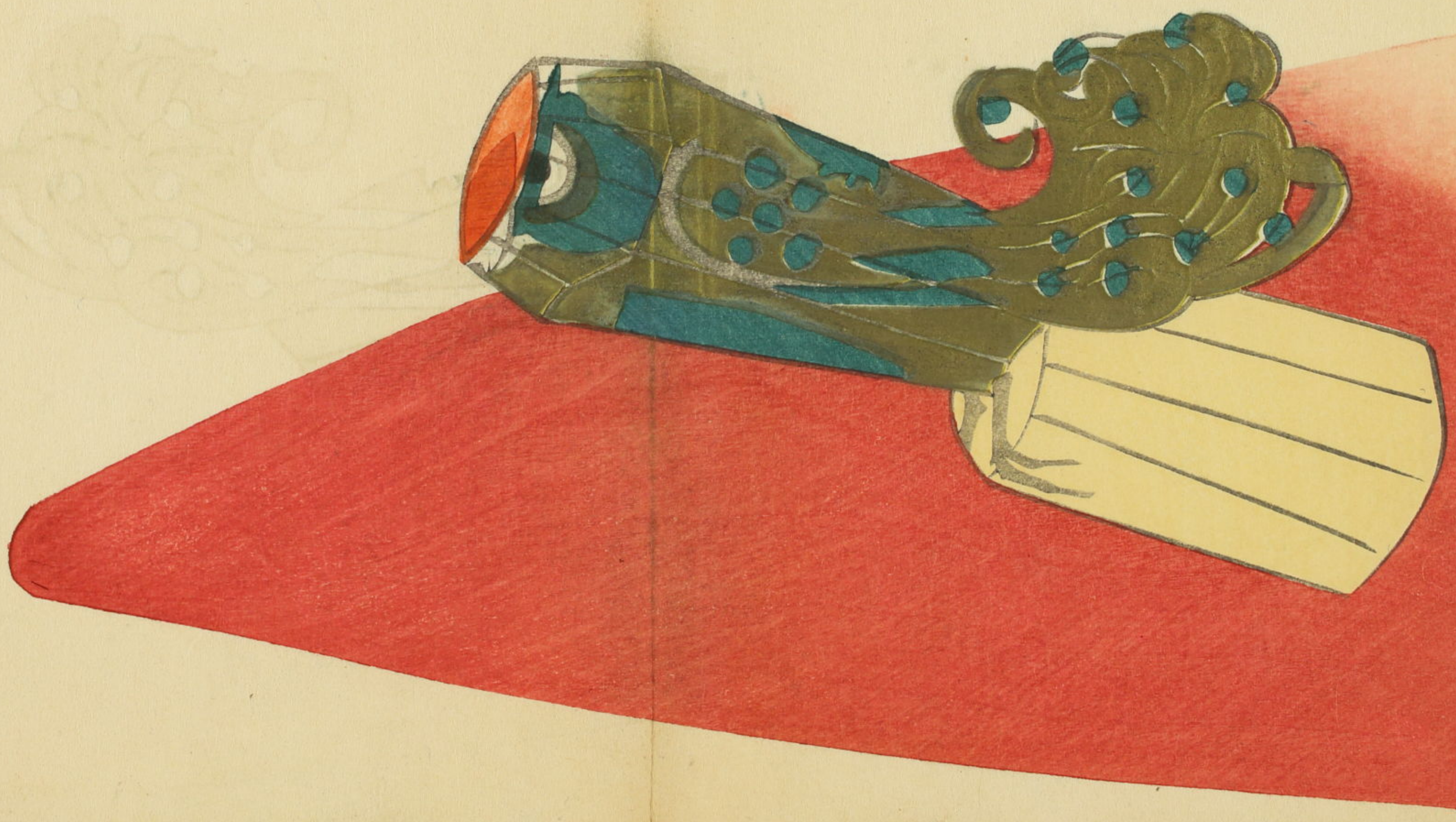
梅 名

あまのつねの 終子

あまのつねの 終子

あまのつねの 終子

音圖



樹さす志さくか影やゆふかきみ 超翠

大ぬくやちるく猿のむつちき 和報

あれ々々羽子やうけのよまきらひし 松堂

車戸にそよ風をうけしる 北台
人通し路のありやうそのふ 曾外
一枚もなきはきえせぬ板くれ 可由

燈やちり宿をばをぬ 新使晴江
妻をよかばよき柑子たくや花 希云
唐くやけけのゆりや急才柳 章甫
さるのあゆみくさくさ口やさくさ 桂 素傑
象くけは妻を笑うて新の梅如水

え日やおもひまはれつゝ嘆えらむ 素海
夜あまけけ物まねたふんや月明 西巷
懐りよふや藍の赤もも妻の色 甫翠
やあまをアウ一息つゝや末を御 管庭
おろ酔れこれささあけ妻の雪 广弥

梅かをる日中人をそよ風遠くより 林坡

申乃春

昔のやが徒

田作やかききき中りみり
 漂や 帆 揚 々 々 々 小舟
 神 磨 よ り り 過 々 小半時
 之 日 月 長 小 日 掃 々 不
 達 兼 々 傷 々 々 々 雨
 程 解 々 畑 々 々 々 雨
 戸 さ 々 々 人 乃 告 々 中
 家 腰 々 々 々 々 々 々 裡
 凍 々 々 々 々 々 々 々 々
 鼻 露 々 々 々 々 々 々 牛
 海 老 獲 々 々 々 々 々 々 々
 帆 柱 々 々 常 々 々 々 々 々
 々 初 々 々 々 々 々 僕 々 々 々
 歩 々 々 々 火 々 々 々 々 々
 伐 口 々 々 々 々 々 々 々 々
 中 々 々 々 夫 人 不 孕 々 々
 々 々 水 々 々 々 々 々 々 々
 降 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 捨 々 々 々 々 々 々 々 々 々

大 多 北 州 朴 恬 其 友 松 英 素 岳 東 堤 眞 兆 呂 山 如 水 一 一 椰 高 古 飄 起 朝 公 朴 空 只 可 隆 再 多 二 水 水 一 點 々 々 龜 巖



紫山居写



東南画



和風とやうふさや
 花のさき

花のさきとやうふさや
 花のさき

土まのさきのまも
 まちやまのまも
 其友

戸り雨のさきとやうふさや
 井戸のさき
 花のさきとやうふさや
 貝
 花のさきとやうふさや
 花のさき

赤きやうふさや
 花のさき
 花のさきとやうふさや
 花のさき
 花のさきとやうふさや
 花のさき

目かきとやうふさや
 小ねとやうふさや
 花のさき
 花のさきとやうふさや
 花のさき
 花のさき

鈴や延虫
 花のさきの
 花のさき
 花のさき

初と終 芦城 千年連

十三年五月廿

斗室の主人

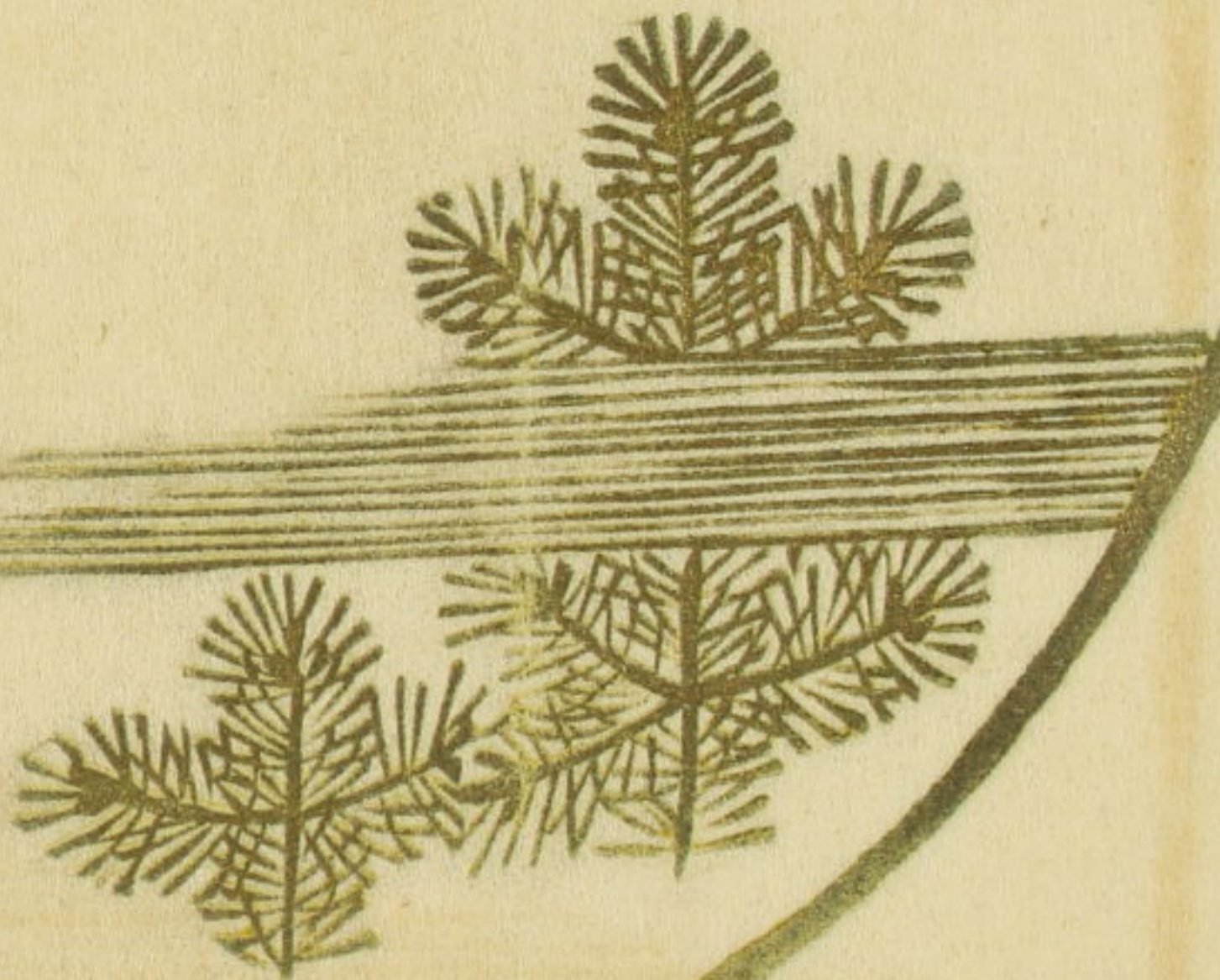
一書

白子

一

西窓葺

時告



我々

一

一

一

一

菖園廼

康吻

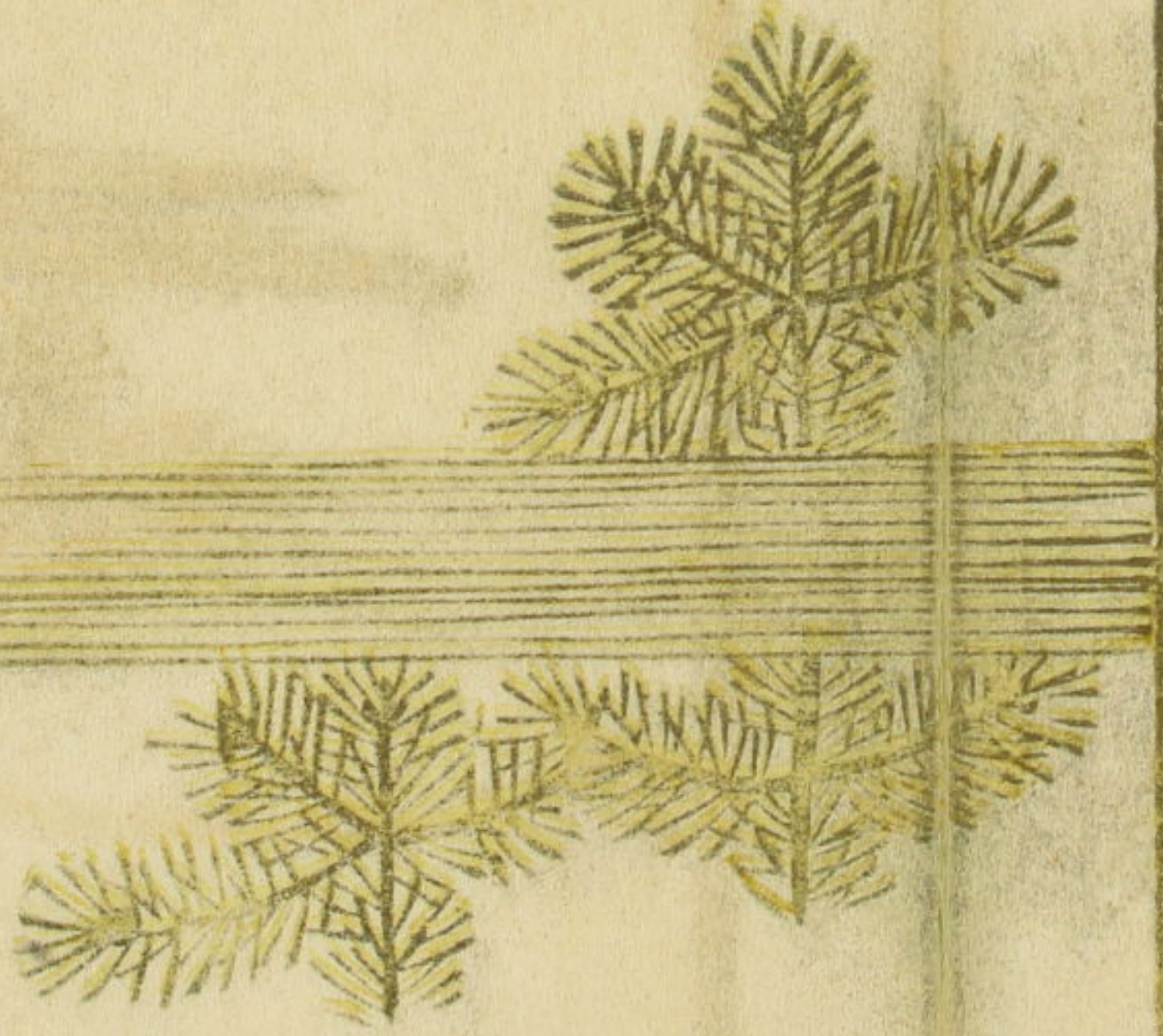
一

一

一

一

全





花は乃れ其の如く
風は乃れ其の如く
其の如く其の如く
其の如く其の如く
其の如く其の如く
其の如く其の如く
其の如く其の如く
其の如く其の如く
其の如く其の如く
其の如く其の如く

春湖
卷一
徐末
協玉

集権 

梅咲ふまか 十七七
 梅咲ふまか

ほろりと

白いふも

ふふふふふふ 女
 風亭

笑ひ顔



何事や強り強くも 花より 南圃
 昔は昔と振ふん 遠のきぬ 子用
 ことハ思ふ月わ〜 暮ふら 女 郁子
 女物や玉とふ〜 女 志ら
 昔は昔の海老ん〜 女 用
 女は〜も 猪〜と 女 白
 昔や〜も 女 遠
 朝の〜も 女 芳
 偶〜も 女 自
 昔〜も 女 大

子のすぢ

寄山




いそよよ 軒より 暖はつたなり
 うきうき ちかひと ちかたつとよきとを

西標堂遊夢

まじまじと いらん人の なごさ山里
 うやうや 暖かきと ともなわハかりし

竹屋後順

ゆきも 山と 常一り ちかたつとよきとを
 まつちかたつ みのくも さくらみかたつ

坐風舎は汲

さつちの やいかに みの 衣や ちかたつとよきとを
 まつちかたつ みのくも さくらみかたつ 抑

行山住雀

揚う 揚う ちかたつとよきとを
 まつちかたつ みのくも さくらみかたつ

笠通令蒲目

柳う 柳う ちかたつとよきとを
 まつちかたつ みのくも さくらみかたつ

竹屋後順

あつちの やいかに みの 衣や ちかたつとよきとを
 まつちかたつ みのくも さくらみかたつ

阿加井信屋

まふと

芦城連

銘酒



渡邊氏の書道
酒の名も
遠慮の難い

秋海

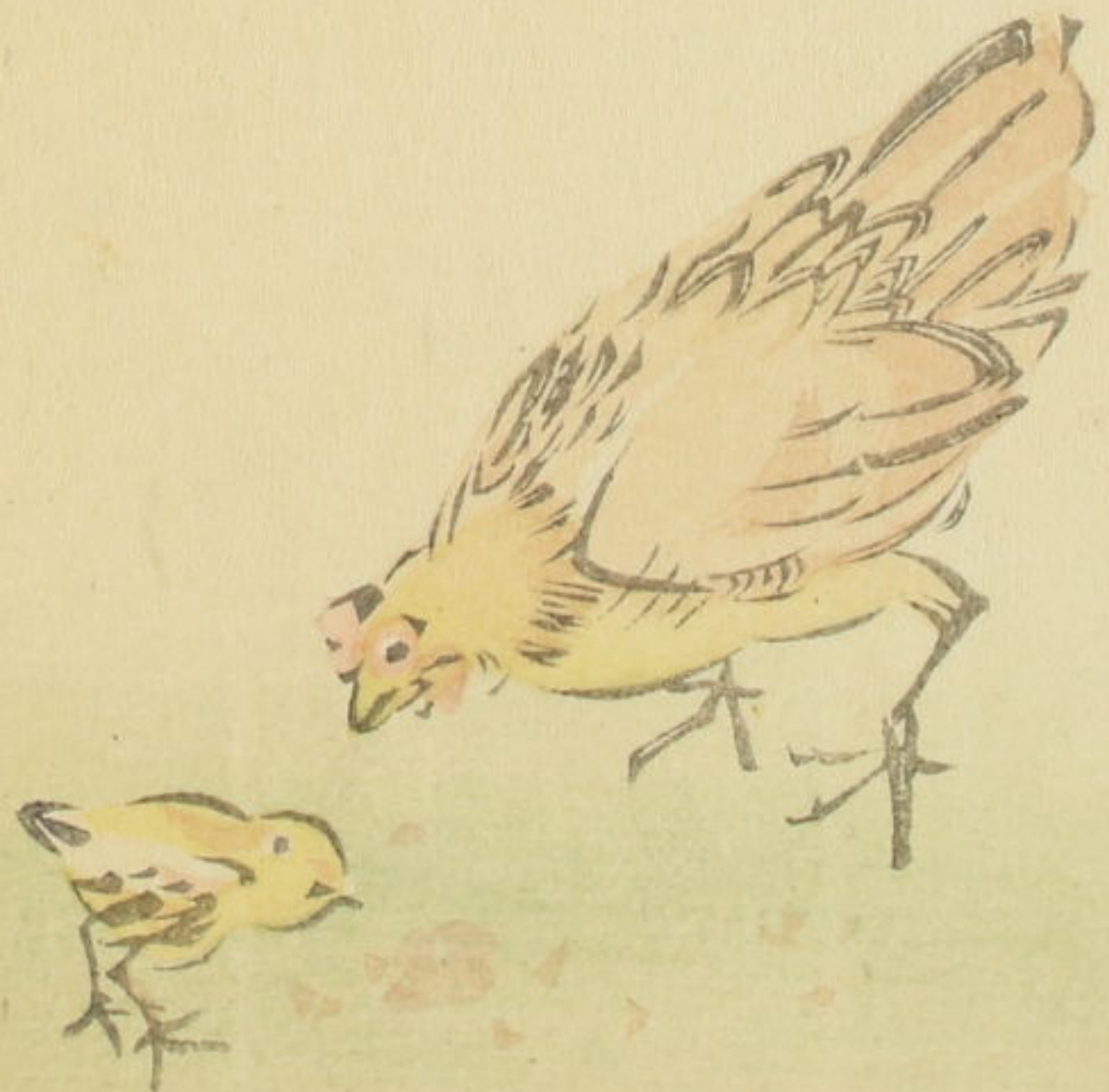
之紙竹の
君の松乃

松乃松乃

松乃松乃

松乃松乃

大弟



松乃松乃
年々
未
君
古
村
松乃松乃

亭内

東山
東
山



文音

万葉のあまのつね 卯尤ききの羽根 梅通

坐とゆるみつくやほつり 明乃妻 妻家

梅足きて 炉子おほ 切つ布み 急山

く先 似や 恒根ニ ちうき 江の月 相 号 庭

道 芝や 招を ぶを 世屋 年 とも 若 菜 晴 江

印

なき凡そ戦きのええで夏雨残 玉礎
 予立て凡のまたせるふ雨り部 松洲
 疲れさる牛子もまけ寸合飲の花 且里
 昼うぬや櫃く水もなき田のひり 賀石
 水音ハ昔よも洲てあけりさう那 三洞
 夏水ツホく 口ルあちるさめり 广涂
 涼一さや写毎く 床の花 李口

歩月



北園
 行来く不遠く
 流あつた
 中

幌洲
 おろろわくも
 せやあつた
 赤くう那

杖引く何と人房さる 鶴樵
 へんくおあ

桑友
 へんくおやうし
 へんくおあ

松鳩
 吹く
 へんくおあ

芦歌
 へんくおあ

まの

歩月常連



世に...
 短くして...
 蘇...
 解...
 古...
 今...

純年
 一石
 南桂

蘭乃妻

来
 華


有花

山
 山

晴中

花
 花

其花

花
 花

玉
 玉

花
 花





梅通

やうやう井戸の凍

きんぎょの白ひし 雲のま

まき 二月日

吹雪のやうに

林檎

かき川が流るる

松生

うつくしき雪のや

雪入りの吐き

希云

明け方の夜更の月

度々つら涙

松年

かたがたのうらみ

今丁てあゝ色

九条

梅の七変化

扇菴のまじりて書きたるをいふに
浮世を流るる名はまをせん梅の月

孝弟
菖尺

扇を照く子々肌ふらふら

一石

らんらんちの奥の花なり

沃如

今着せし袖は流るる手鞆

南桂

山透るる高きうらみ

望実

うらみのをうつとあまき鏡

晴江



此身一々丸くこころやまみたり
 解言
 南女雲子
 牛
 若
 子

枝々木も木の根のやまをるめ
 曾良
 上下のさき うち 拂小初りうね
 孤系
 うるすやかふ榎まるとたろうね
 巨碩
 良志りしき 彼もふり 初りうね
 可隆
 帆の色も並つよまらちやまの海
 南元

多叶や名のつ

まのね母み 雅山

えりや序次 可幸

あまのさき

あまのさき

あまのさき

あまのさき

元双丸

あまのさき

あまのさき 古城 千年連



